

- ・ 看護師さんがとても良かったデス。

<対応への注文>

- ・ 以前（7年以上前）受けた時には事前カウンセリング（説明）が十分だった覚えがあるが、少し物足りなさを感じた。
- ・ 具体的なカウンセリングがやや物足りない気がします。

（5）検査等へのPR不足の指摘

- ・ HIV検査で結果を知るのが恐いと思っている人は多いと思うので、検査をしましょうとだけ呼びかけるのではなく、治療効果なども説明していけば、より一層検査に関心をもてると思う。
- ・ このような制度があることが、まだまだ普及していないように思われ、住民全体に対するPR等が必要と思っています。
- ・ もっともっとみんなが関心を持ち、又、こういう場所等の啓蒙にも力を入れて下さい。
- ・ HIVがどれだけ怖い病気なのかを知らない人が日本人には多いと思います。TVのCMや、病院で告知をするのと、小学校から教えていったほうが良いと思います。
- ・ もっとHIVの医療は進んでいる、検査に行くのは恥ずかしくない当たり前、コンドームを女性が持ち歩くのも当たりの、閉鎖的なところを除くようにどんどん公共広告していくと、HIVの広がりもくい止められると思います。
- ・ テレビのCMなどでみんなに呼びかけているのは良い事だと思います。みんながもっと簡単に検査できるように検査の方法だけでなく、事前事後のカウンセリングが具体的にみんな告知できれば日本人の意識レベルが高まると思います。

（6）特になし

- ・ こんなもんじゃないですかね。
- ・ 特になし（4件）。
- ・ とても良い対応でよかったです。
- ・ 今後もこのような機会を続けてほしいと思います。
- ・ 不快な印象はなく、非常に適切であったと思います。
- ・ 良かったです。
- ・ 無料検査がありがたい（3件）。

（7）その他

- ・ 一般健診に取り入れられないのでしょうか。
- ・ 重要性が叫ばれているのなら、なぜ通常の健康診断で行わないのか？
- ・ 採血が痛い、怖い。痛くない注射針の開発をしてほしい。
- ・ 人が少なくてよかった。
- ・ 国がもっと多くの方が当然に検査を受ける環境をつくるべきだと思います。
- ・ 現在のところ検査項目はHIV、梅毒、クラミジアの3点のみとなってはいるのですが、出来れば他の性感染症（C型肝炎等）も含めていただきたい。各性感染症に感染する可能性の有る性行為について詳しく書かれた小冊子があればよいと思います。
- ・ 特に問題すべき不満な点はありませんでした。ただ数名の人が来るので採取者（看護師）さんはゴム手袋をした方がよいと思った。
- ・ カウンセリングは事前より事後に重点を置いたほうがよいと思います。知識が少ない点とたとえ知識があったとしてもパニックになってしまう事が考えられるからです。
- ・ 検査を受けた動機、心当たりについての調査がなく、プライバシーについて安心できる。
- ・ 海外に長く滞在していたため検査に来ました。プライバシーへの配慮は特に大事ですが、もっと身近な病気として、もっと明るく検査出来ればと思います。
- ・ 過去に別のある保健所で検査した時の事前のカウンセリングで、話したくもないのに感染機会のあった状況について根掘り葉掘り聞かれていやな思いをした事があったのですが、ここではそのような事が全くなかったので良かったです。他の検査場でもそうであってほしいと思います。

形成調査 7 の大阪府保健所の調査における自由記述回答の内容のまとめ

1. 質問内容

質問 D「本日の HIV 検査について、具体的に、どのような問題点があり、それをどのように改善すればよいかの提案（時間帯、曜日、迅速検査、受付、事前事後のカounseling、告知の仕方、プライバシーの配慮など）があればお書きください。また、よかった点があれば、それもお書きください。今後の改善の上で重要ですので、できるだけ多くお書きいただければ幸いです。ただしご自分の特定につながるような個人情報を含めないように御願います。」

2. 回答数

313 人の回答者のうち、172 人から有効な自由記述回答が得られた。

3. 回答内容の集計

* 同じ人の回答に複数の内容が含まれる場合は、分割して集計。

内容	件数
(1) 検査に関する意見	
<検査の曜日・時間帯>	73
<結果伝達の工夫>	4
<待ち時間の長さ>	2
(2) 検査結果にかかる時間に関する意見	
<即日検査・早い結果返し>	13
<一週間は長い>	4
(3) 待合室のプライバシーに関する意見	16
(4) 施設内の案内に関する意見	5
(5) 担当者の対応・態度に対する意見	
<説明がよい>	14
<プライバシー配慮評価>	5
<親切・丁寧>	24
<対応への注文>	2
(6) 性的指向への配慮	3
(7) 検査等への PR 不足の指摘	9
(8) 説明不足の指摘	7
(9) 特に問題なし	18
(10) その他	10

4. 回答内容の具体例

- ・ 表現はプライバシーに触れないように改変・短縮
- ・ 複数の内容が含まれる場合は、分割して分類。

(1) 検査に関する意見

<検査の曜日・時間帯>

- ・ 月～金曜日は働いているので、土曜日にしていただけると助かります。
- ・ やはり曜日、時間帯が限定しすぎ。仕事等で来れない人がいると思う。
- ・ できれば土曜日の午前中とかにしてほしい。
- ・ 曜日を増やして欲しい
- ・ 曜日と時間帯が限られているので平日に休みの取れない方などは受けたくても受けられない。
- ・ 曜日、時間帯がかなり限られていて、よほどでないとい検査出来ないのはどうかと思う。
- ・ 曜日は木曜でも良いけど、2:00～3:00 だと学生は来れない（早退しないとイケない）。2:00～3:00 にするなら土曜や日曜の学校のない日か、木曜なら時間をもっと遅くして欲しいと思った。
- ・ 土日を受けられるようにして欲しい。事前のカounseling が良かった。

- ・ 時間帯、曜日についてはもう少し自由に来れるようにしてもらいたい。今のままだと検査をしたくても出来ない人が出てくると思う。
- ・ 時間帯について、朝早くやった(8:00or9:00とか)又、夜遅くやった方がいいと思う。
- ・ 週に1度、1時間のみの検査では来れるチャンスが少ない。
- ・ 曜日を増やして欲しい。
- ・ 曜日、時間帯を問わず受診できるようにして欲しい。
- ・ 木曜日に検査を受けたのですが、平日だけではなく、隔週でも良いから土、日に検査日があるとよい。
- ・ 仕事をしているので、平日の昼間来るのがむずかしい。土・日も行っていただけると尚良い。
- ・ 平日の1時間や限られた時間帯設定では本当は受けたいと考えている人が受けられない可能性がある。
- ・ 検査の曜日と時間帯をもう少し増やしてほしい。
- ・ 仕事などで平日来れない人もたくさんいると思うので、時間帯を長くするか、土曜日の午前だけでも検査を受けられるなどしてもらえるとよい
- ・ 平日午前・午後には有休をとらないといけない。大阪の都市でも土・日はやっているが地元でも行けるようにして欲しい。病院では1万円弱かかり、時間の都合からお金がかかる方を選ばないといけない時があった。いつでもどこでも受けれる体制にして欲しい。
- ・ 時間帯、曜日を土、日、祝日でも受けれるようにしていただきたい。(どこでも)
- ・ 検査できる日程がもう少し多ければありがたい。あと時間帯ももう少し長い方が嬉しいです。
- ・ 週1日だけじゃなくて日数をもっと増やしたらいいと思う。時間帯も長めにするとか…。
- ・ 曜日を増やして欲しい。
- ・ 水曜日しかやってないのは…土日もやってほしい。夜もやってほしいです。
- ・ 平日の昼間の限られた時間で来て検査できるひとは非常に少ないと思います。
- ・ 曜日、時間帯を増やして欲しい。
- ・ 土曜日・日曜日の検査や平日であれば、夜間も検査が受けれるようにして欲しいです。
- ・ 検査日・時間がかかなり限定されているので、他の曜日・時間にでも予約をすれば、検査をしていただけるとありがたいです。
- ・ 夜間・休日にできる所をもっと増やして欲しい。
- ・ 検査の日と結果を受ける2回も平日に会社を休まねばならない。土日か夜間にも検査をして欲しい。
- ・ 週一回でお願いしたい。時間帯も終日やって欲しい。
- ・ 曜日がもっとあったらいいと思います。
- ・ 土曜日に対応してもらいたいです。
- ・ 時間帯や曜日をいつでもいけるようにしてほしい。
- ・ もう少し受付時間・日に幅があればいいなあ…
- ・ 曜日や時間帯の選択の幅をもっと広げてほしい。(できれば、いつでも可能等)
- ・ 仕事の都合などもあるので検査日や結果日、時間などもう少し多くしたら良いかと思います。
- ・ 普段月~土まで仕事をしているので、平日の昼間にわざわざ時間を作るのは大変でした。会社に理由をつけるのが面倒でした。もっと多くの人が行きやすい日・時間帯でやっていけばいいと思います。
- ・ 休日でも開いていると良いと感じた。
- ・ 平日夜間、土日祝日等に受けることができる場所を増やして欲しいです。
- ・ 時間や曜日が難しい時間帯だと思いました。
- ・ 曜日、時間帯が大変制約されておりもっと拡大してほしい。
- ・ 曜日、特に時間も短いので仕事の都合がつけにくく、なかなか来れませんでした。
- ・ 検査を受けれる時間、曜日をふやしたらもっと検査しやすくなると思う。
- ・ もう少し検査できる曜日と時間帯をふやして欲しい。
- ・ もう少し曜日を増やすほうが、来る方が増えるのではないかと思います。
- ・ 時間と曜日をもっと増やした方がいいかと思う。
- ・ 平日の晩にも検査があればよい。
- ・ 検査曜日を増やすと良いと思う(週2程)。
- ・ もう少し検査の時間帯を長くしてほしい。
- ・ 検査を受けれる時間帯、曜日が非常に限られている。これでは働き出すと受けられなくなると思う。
- ・ 曜日などが増えてもう少し来やすければ良いと思いますが、検査を受ける人の数を考えると今の状態しかないかなと思います。
- ・ 時間帯を昼だけでなく夜や、曜日も増やすと良いと思います。
- ・ 時間帯は問題ないですが、曜日がすごく限定されてるのが不満です。〇〇保健所は第〇曜日のみといったよ

うにかなり制限があるので、仕事している人は検査に来にくいと思います。

- ・ 検査を受けに来ている人数は確かに少ないのですが、病気が病気だけに、時間帯、曜日を広く設定し、もう少し受けやすい環境を作った方がよいのではないかとと思う。
- ・ 受付日、時間帯は拡大すべきだと思う。毎日とはいかずとも、週 2 日、平日と土曜日や日曜日と、働く人のタイプによって選択できるようになってほしい。時間帯も午前・午後に分けることが必要ではないか。
- ・ 検査を受けられる日が少なすぎるように感じられます。
- ・ 時間帯は午後にも設けてほしい。
- ・ 結果の曜日をもっと色々あったら助かります。
- ・ 検査日、時間の拡大。
- ・ 受付時間が 2 時～3 時の 1 時間しか無いのが少し不満である。
- ・ 検査日はいつでも実施できるようにして欲しい。検査結果を電話で回答できるようにして欲しい。
- ・ 検査結果について、時間帯にももう少し幅があれば良いと思った。あるいは時間指定ができるような仕組みになっていれば良かった。
- ・ 仕事があるので時間帯を増やしてほしいと思いました。
- ・ 時間帯が朝早く、平日なのでしんどかった。
- ・ 午後 6 時以降～7 時の時間帯があれば、仕事を休めない人も受けに行きやすいと思います。この時間帯で開けてくれている保健所が少ない。
- ・ 検査日がもう少し、ふえれば良いなと思いました。できれば毎週が良いです。
- ・ 学生にとってこの時間帯は少し難しいと思った。
- ・ 足を運びやすいような時間、5:00 以降等に検査があってもうれしい。
- ・ 毎週とか、少し日数を増やしたら、お仕事されている方でも来やすいと思います。
- ・ 結果の時間帯はやはり夜の方が好ましい。
- ・ 時間帯や曜日は不便な人もいるかもしれないが、梅田やなんばで土日に実施しているのでいいと思う。
- ・ 木曜日 (14:00～15:00) という時間帯では、普通であれば都合をつけるのは難しいと思います。

<結果伝達の工夫>

- ・ 一週間後の平日に、また結果を受け取りに来る事も大変困難です。以前他の国で経験したことですが、検査の結果が出たところに、あらかじめもらった (パスワード: 番号) を使い、いつでも電話で結果確認ができるシステムがあれば、便利だと思います。病院 (保健所) 等へ行く事が一度ですみます。
- ・ 平日の昼間という時間帯が来にくいです。夜間か土・日もあると人が来やすいと思います。希望者には郵送しても良いかと思えます。
- ・ 勤めていたら中々検査にこれない。また取りにこれない。時間外に取りにこれるようなシステムがあればよいと思う。
- ・ 検査曜日は特定の日でもよいが、結果は 1 週間後であれば、いつでも解るようにまた郵送 (局留) 等も利用できるようにして頂ければうれしいです。

<待ち時間の長さ>

- ・ 30 分位あれば全て終わると思いましたが、混んでいたためか、1 時間費やしました。
- ・ 待ち時間が長すぎる。

(2) 検査結果にかかる時間に対する意見

<即日検査・早い結果返し>

- ・ 検査結果を当日にしてもらいたい。
- ・ 即日検査もして欲しいです。
- ・ 迅速検査
- ・ 結果が即日わかるようにしてもらえれば、もっと気軽に受信できるようになると思います。
- ・ 迅速検査にしてもらいたい。
- ・ 検査結果が出るまでの時間を短縮してほしいです。例) 1 週間→即日
- ・ 検査結果については、所要 1 週間とのことだったが、出来れば、即日から翌日で分かれば良い。
- ・ 検査の結果が出るのに、1 週間かかるというのがやはり不安で一杯になる。もう少し、早いこと結果が出れば良いと思う。
- ・ HIV の検査の結果を早く出して欲しいです。
- ・ 出来るだけ早く結果を聞きたい。
- ・ 結果が出るまでの時間を短縮して欲しいです。
- ・ 希望としては、結果は早いにこしたことはないと思う

- ・ 簡単な結果をはやめに教えてもらえたらと思います。
- ・ <一週間は長い>
- ・ 1週間待たなくてはいけないのが辛い。
- ・ 検査当日に結果を知りたかった。一週間つらかった。
- ・ 結果通知が1週間後でしたので、その間は不安でいっぱいでした。
- ・ 1週間の待ち時間があつたため非常にこわかった。できればもっと早く、結果を出していただきたい。

(3) 待合室のプライバシーに関する意見

- ・ 待合室のプライバシーの保護。
- ・ 待ち合いの場所で知り合いに会う可能性もあるので、もう少しプライバシーに配慮して欲しい。
- ・ ジロジロと他の検査を受ける人にも見られてあまりプライバシーがあるとは思えない。(待合中)
- ・ 待合場所の雰囲気は良くないと思うが、皆気恥ずかしい気持ちがあるので仕方がないと思う。少しでもいいから囲いなどを作ってやるとよいのではないのでしょうか。
- ・ 待合室がオープンすぎる感じがしてやや不満。
- ・ 待合場所をもう少し工夫した方が良いと思う。
- ・ 受付・待合も個室の方がいい。
- ・ 待合室で知人に会ったりしない様にカーテンなど増やした方がいいと思います。
- ・ 待合室がロビーであり、他の職員の人などと顔を合わしたりして少しはずかしかったです。ポスターには匿名と書かれているから安心して来たのですが、待合室では顔がバレるということで自分の近くの保健所では受けたくないと思いました。もう少しプライバシーの件を配慮しないと検査を受けに来る人が増えないと思います。
- ・ プライバシー保護の割には、カーテンなど待ち合い場所にもっとつけて欲しい。
- ・ 保健所に入ったすぐの場所が待合となったので部屋を用意頂けたらありがたい。
- ・ 匿名なのに、待合室が狭くまわりの方にすぐ検査対象者だという事がバレてしまい少し嫌でした。
- ・ 匿名であるにも関わらず、待合室で被験者が顔を合わせたりしていたら意味がないのでは?。予約制や、待ち時間のスライド化などの工夫してみてもいいかでしょうか?
- ・ 不安を増長させる雰囲気の部屋だった。(待合室、カウンセリング室)
- ・ 採血の時の場所を保護するものはあつたが(ついたてみたいな物)、横の人が丸見えで、視線も気になるし、雑談しているし、気になる人は気になると思う。なるべく誰とも会いたくないのだから。プライバシーの保護が中途半端な気がする。
- ・ 相談、カウンセリングは個室でおこなってくれるが、事務所で血液検査のことを聞くのであれば意味がないのではないかと?!

(4) 施設内の案内に関する意見

- ・ 受付が不明。結果を聞きにくる時もどこに行けばよいかわからない。
- ・ 受付時どこに行けばよいかわからない。
- ・ 受取に来た時の受付が解りづらい。
- ・ 受付の場所が分かりにくいです。個室なので、よかったです。
- ・ 入り口からすぐ進行方向が分かる様に矢印などがあればもっと分かりやすく、入りやすいのでは?

(5) 担当者の対応・態度に関する意見

<説明がよい>

- ・ 説明は丁寧でゆったりとしていて良かったです。
- ・ HIV/AIDS に関しての説明がきちんとなされていた点が非常に良かったです。
- ・ 検査担当者の方の説明で簡潔でよかったです。
- ・ きちんと説明していただき満足しています。
- ・ とてもわかりやすく説明してもらいました。
- ・ とても分かりやすい説明と丁寧な対応をしていただきありがとうございました。
- ・ 説明が分かりやすかった。
- ・ 説明もわかりやすく優しく良かったです。友達にもオススメです。
- ・ とても細かく、説明とアドバイスをいただけてよかったです。自分で少しあいまいであった知識の部分も説明いただけてよくわかった。

- ・ 担当の方はとても親切で、すべての質問について丁寧に答えてくださいました。なかなか普通の機関で専門家の方とお話させていただく機会がないので、いろんな相談ができて助かりました。
- ・ 分かり易く説明していただいた点がとても良く、安心できました。
- ・ 丁寧に説明して下さってビックリしました。(市役所の人とかの対応は事務的なことが多かったのです)
- ・ 説明もわかりやすく、丁寧にさせていただいて本当に良かったです。
- ・ 多少の不安がありましたが係の女性がわかりやすく説明してくれたので安心して友人知人にも教える事ができます。ありがとうございました。

<プライバシー配慮評価>

- ・ 匿名で受ける事ができて、プライバシーも配慮されていましたので、良かったです。
- ・ プライバシーの配慮は問題ないです。
- ・ 検査自体は非常に迅速でプライバシーも考慮して頂きよかったですと思います。
- ・ プライバシーの配慮などはとても良かったと思います。
- ・ プライバシーに対する配慮が非常にいきとどいていることにびっくりしました。安心して受けられるというのが今回の一番の印象です。周りの友人にもすすめたいと思います。

<親切・丁寧>

- ・ 職員の方々の対応や態度にはすごく満足している。
- ・ 受付(担当者)の人達もやさしかったので緊張しなくてよかった。
- ・ 相談にのってくださり、いろいろなアドバイスもして頂き、感謝しています。
- ・ 親切に相談に乗ってくれた。
- ・ 対応が良くて話しやすかった。
- ・ 笑顔で案内してくれたので安心できた。
- ・ 担当の方が親切で、よかった。
- ・ 結果担当者の態度が非常に適切で好感を持たれました。ありがとうございました。
- ・ 良い対応してくれたし、別になんにも言うことないです!
- ・ 受け付けして下さい下さった方が笑顔で対応してくださったので不安が軽減されました。
- ・ ていねいな対応で満足している。
- ・ 全体にわたりプライバシーの配慮が感じられ良かったと思う。
- ・ とても良かったです。何を聞いてもふしんがらず聞いてくれてうれしかった。
- ・ 事前事後の担当のカウンセリング職員の対応には満足していますが、
- ・ 対応はすごく安心できたとし、HIVの検査は受けておいてよかったと感じた。
- ・ 話しやすいので、検査に抵抗がなかった。
- ・ とても話しやすく、結果についてもわかりやすく説明してもらいました。親切、親身に対応していただき、ありがとうございました。
- ・ 担当者方の対応も優しく、とても快く感じました。
- ・ 親切な対応ありがとうございました。
- ・ 相談にのってもらえたので良かったです。今後の生活態度も改めようと思います。性病のことを考えるよいきっかけになりました。
- ・ カウンセリングの方と採血をして下さる方が穏やかで、優しく安心した。
- ・ カウンセリングの人が優しくかった。
- ・ カウンセリングの方の対応はとっても良かった。一番初め不安だったが、とっても優しく来て良かったと思った。
- ・ 親身になってカウンセリングしてくれた。

<対応への注文>

- ・ 保健所の受付で HIV 検査の担当者を呼んでもらうようお願いした時に、職員全員に聞こえるような大声で「エイズ検査」と言われ少しつらかったです。
- ・ 告知の仕方について→相当緊張した。

(6) 性的指向への配慮

- ・ 性的指向に対しての寛容な態度は良かったです。
- ・ 以前に検査した時は、結果担当者が、僕の性的指向(ゲイ)を考えずにストレートだという前提で話をしていたのが、少し不満でした。今回は、特に僕がどういった性的指向であるかということは担当の方は話されなかったもので、前回よりも満足しています。
- ・ 特に目につく問題点は見受けられなかったが、やはり同性愛者のカウンセラーの方などいっしょにしゃべれば深い

話が出来たと思います。そういう方の募集もしてみたいかでしょうか？

(7) 検査等のPR不足の指摘

- ・ もっともっと気楽に来る事ができる様にCMすべきだ。
- ・ 保健所の前にポスター（検査、本日やっています）でアピールや、近くの中・高校へアピールしたり、イベントなどをやるともっとみんなに知られると思います。
- ・ HIV検査についての周知が十分とはいえず、検査がなされるに際し、十分にプライバシー保護が図られていることをもっと広く知らせるべきと思う。
- ・ （検査の情報）若い人に浸透していないのもっといろんな所で周知をした方がいいと思います。
- ・ テレビで無記名、無料という事が解り安心して保健所へ電話致しました。来て良かったと思います。
- ・ 検査している事が分かりにくいので、知らない人も多いと思う。インターネットや携帯で調べれば、いつ、どこで検査しているか分かるので、そのことをCMなどでしたり、ポスターで検査の案内をしたらもっと多くの人が受けれると思う。
- ・ 無料で検査が出来ることは知らなかったし、こんな近くでも検査が出来るとも知らなかったです。
- ・ インターネットで調べてきたのですが、曜日ごとに検査している曜日が違い、都合の合う保健所に行けば、いつでも検査が受けれるので良かった。インターネットで調べれば保健所で検査が受けれる事をもっと伝えると良いと思う。
- ・ 私が保健所で検査をしてくれる事を知りませんでした。そういった人がたくさんいると思うので、もっと広げた方がいいと思います。

(8) 説明不足の指摘

- ・ クラミジアなど+の結果が出たときに検査や治療できる病院を具体的に教えてほしい。また、あとの注意点までも結果時に詳しくカウンセリングを受けたい。
- ・ 検査の正確性についての説明が欠けている。
- ・ 3週間以上経過しないと検査結果がわからない事と別にこの検査だけでは100%HIVキャリアかどうか判断しないという点についての説明がわかりづらかった。
- ・ HIVについての説明書きのレベルがどれも浅く同じレベル。ウイルスについて、感染機序についてもっと専門的な詳しい説明をして、HIVについてアナウンスをしても良いと感じた。
- ・ 匿名の検査については、番号にするなどの工夫があってもいいように思う。
- ・ ホームページに「気になる事があって3ヶ月経たないと正確な検査結果が出ない」と書いておいてもらえば良かった。
- ・ もう少しくわしくも言ってほしい。

(9) 特に問題なし

- ・ 特になし（18件）

(10) その他

- ・ 診断書がもらえて自分の相手（彼氏や彼女）に報告できる、また証拠となるのでありがたい。
- ・ 病院だけでなく、診断書の発行もして欲しい。
- ・ 普通は、体調が悪く病院に行って血液検査を受けるときに、ついでにHIV検査をしたい。また関心がない人に検査をさせる場合に、他の検査のために病院で採血のついでにHIV検査をさせたい。病院での検査も無料にして欲しい。
- ・ 極度の不安の方もいると思うので、必記≠（問診）で済ませられる質問はそうすれば、来られた方の気持ちを必要以上に刺激しないと思います。接する人が少ない方が安心だと思うし、会話の少ない方が安心な方もおられると思います。
- ・ HIVに対する理解が深まり、意識の改善につながりました。
- ・ 音楽を流しているところが安心出来ました。選曲もよく、カウンセリングも外に聴こえないと思ったので安心してカウンセリング・検査を受ける事が出来ました。
- ・ 自分で封を開けてくださいと言われるのはプレッシャーがありました。
- ・ 欲をいえば他にも検査項目を増やして頂けるとありがたいです。
- ・ 待合室のパンフレットは、他の人がいると取りにくい。正面ではなく背後に設置するようになりたい。
- ・ エイズ等のパンフレットは、駅等にも置いて欲しい。

エイズ予防のための戦略研究

首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした

HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究

研究計画書

厚生労働科学研究費補助金
厚生労働科学特別研究事業

Version 2.3

研究リーダー 市川誠一

名古屋市立大学看護学部 教授
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1
TEL: 052-853-8089 FAX: 052-853-8032
E-mail: yaichisei@ybb.ne.jp

主任研究者 木村 哲

財団法人 エイズ予防財団 理事長
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 1-3-12 水道橋ビル 5 階
TEL: 03-5259-1811(代表) FAX: 03-5259-1812
E-mail: strategy@jfap.or.jp

試験実施予定期間: 2007 年 9 月 1 日～2010 年 12 月 31 日

2007 年 3 月 14 日 倫理審査委員会提出 (Version1.0)
2007 年 5 月 21 日 倫理審査委員会提出 (Version2.0)
2007 年 8 月 17 日 倫理審査委員会提出 (Version2.1)
2007 年 8 月 28 日 倫理審査委員会承認 (Version2.1)
2009 年 4 月 30 日 倫理審査委員会提出 (Version2.2)
2009 年 4 月 30 日 倫理審査委員会承認 (Version2.2)
2010 年 3 月 23 日 倫理審査委員会提出 (Version2.3)
2010 年 8 月 4 日 倫理審査委員会承認 (Version2.3)

0. 研究概要

0.1 目的

本研究では、首都圏および阪神圏に居住する MSM(男性と性的接触を有する男性)を対象に HIV 抗体検査促進のための啓発普及プログラムを実施し、HIV 抗体検査件数の増加、AIDS 発症者の抑制効果を介入前後で評価検討する。

0.2 対象地域・対象者

首都圏(東京都、神奈川県、千葉県)および阪神圏(大阪府、兵庫県、京都府)に在住する MSM を対象とする。

0.3 介入方法

(1) HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及

HIV 抗体検査受検行動の促進を目的とした啓発資材を開発し、ゲイ商業施設、ゲイネットワーク、ゲイメディア、保健所や検査機関を通じて情報の浸透と普及拡大を図る。また年に1-2回 MSM 向けの大規模なエイズ啓発イベントを実施する。

(2) HIV 抗体検査体制の整備と拡大

現行の保健所や公的 HIV 抗体検査機関における検査時間の延長、検査日の拡大を図る。特に夜間及び休日に受検可能な体制を整備する。また、STD クリニックなどの医療機関において HIV 抗体検査を実施し、特定の保健所において臨時的 HIV 抗体検査イベントを実施する。

(3) 相談体制の整備

HIV 抗体検査受検前後に不安を抱える者を対象とした MSM 向けの相談体制を整備する。電話相談員、対面相談員を育成し、相談機関を整備する。

(4) HIV 抗体検査で陽性が判明した患者への受診支援

陽性が判明した患者の受診への不安を軽減し、早期受診を支援する体制を整備する。

0.4 評価項目

0.4.1 主要評価項目

(1) 定点保健所および公的 HIV 抗体検査機関、定点 STD クリニック、定点医療機関で行われた MSM の HIV 抗体検査件数

(2) HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数

0.4.2 副次的評価項目

(1) MSM 受検者のうち本研究で開発・普及した啓発・広報戦略に曝露された割合

(2) MSM 集団における HIV 抗体検査の生涯受検率と過去 1 年間の受検率

(3) 検査機関で陽性が判明した感染者への結果通知割合、医療機関受診割合

(4) 陽性割合

0.5 研究期間

研究期間 2006年11月～2011年3月

試験期間 2007年9月～2010年12月

0.6 問い合わせ先

研究リーダー

名古屋市立大学看護学部 教授 市川誠一

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

TEL:052-853-8089、FAX:052-853-8032

E-mail: yaichisei@ybb.ne.jp

主任研究者

財団法人エイズ予防財団 理事長 木村 哲

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 1-3-12 水道橋ビル 5階

TEL:03-5259-1811(代表)、FAX:03-5259-1812

E-mail: strategy@jfap.or.jp

戦略研究推進室長

国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター センター長 岡 慎一

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

TEL:03-3202-7181、FAX:03-3207-1038

E-mail: oka@imcj.hosp.go.jp

データマネジメントセンター(委託先)

財団法人国際協力医学研究振興財団

日本臨床研究支援センター/臨床研究データマネジメントセンター

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-3

TEL: 03-5287-5121、Fax 03-5287-5126

Email: info@jcrac.ac

データセンター長・統計解析責任者(主要評価項目および副次的評価項目 1, 3, 4)

国立国際医療研究センター研究所 医療情報解析研究部 医学統計研究室 室長 石塚直樹

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

TEL:03-3202-7181(代表)

E-mail: naishi@ri.imcj.go.jp

統計解析責任者(副次的評価項目 2)

名古屋市立大学看護学部 講師 金子典代

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

TEL:052-853-8065、FAX:052-853-8032

E-mail:noriyok@med.nagoya-cu.ac.jp

目次

0. 研究概要	2
1. 背景と根拠	6
2. 目的	8
3. 成果目標	8
4. 研究デザイン	8
5. 対象地域と対象者	8
6. 介入方法	9
7. 観察項目と調査スケジュール	14
8. データの収集	24
9. 有効性の評価項目	24
10. 統計解析	29
11. 研究期間	31
12. 倫理事項	31
13. 間接的に期待される社会的成果	31
14. 安全管理	32
15. 逸脱	33
16. 研究の中止	33
17. データの保存	34
18. モニタリング	34
19. 研究計画の見直し、変更手続き	35
20. 副次的研究の実施	36
21. 研究結果の発表	36
22. 研究計画書の履歴	36
23. 研究組織とその役割	37
24. 研究組織のメンバー	38
25. 連絡先	41
26. 参考文献	42
27. Appendix	43

1.背景と根拠

わが国におけるHIV感染者・AIDS患者は、1996年以降持続的に増加し、2005年4月の累積報告数は1万件を超えた。2005年度に報告された新規HIV感染者は832件、AIDS患者は367件、計1199件であった。感染経路別にみると男性同性間の性的接触による新規HIV感染者数、AIDS患者数は共に増加が著しく、2005年度HIV感染者報告例の63.6%、AIDS患者の36.8%を占める¹。男性同性間の性的接触によるHIV感染者、AIDS患者の報告数の増加は今後も持続すると考えられ、MSM(男性と性的接触を有する男性)を対象としたHIV/AIDS対策に重点的に取り組むことが必要である。

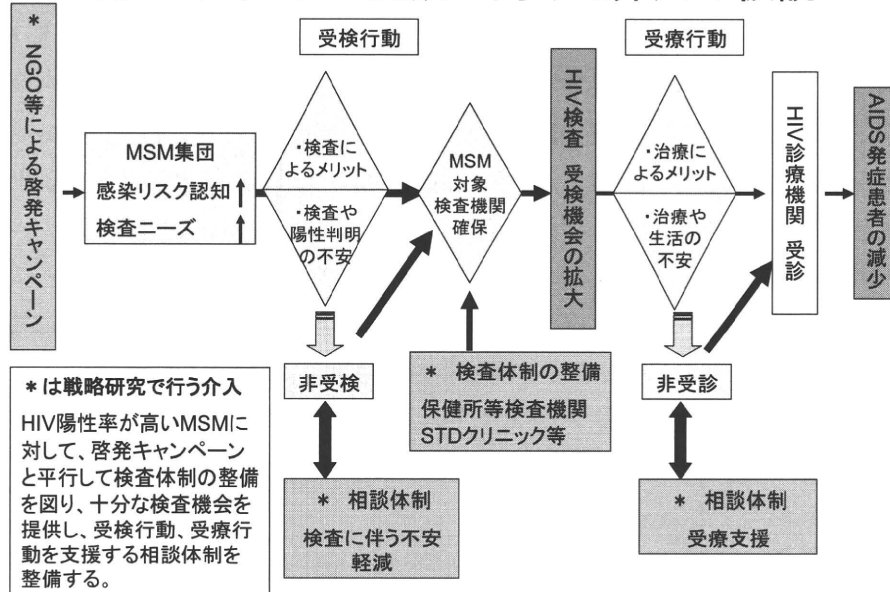
平成17年度報告例の感染報告地はHIV感染者では456件(54.8%)、AIDS患者では207件(56.4%)が東京および関東甲信越ブロックに集中し、ついで近畿ブロックからの報告数が多い状況にある。特に、日本国籍の男性同性間のHIV感染者累計2924件のうち東京および関東甲信越ブロックが64.8%、近畿ブロックが17.8%を占め、同AIDS患者累計899件のうち70.2%、13.0%を各々の地域が占めている。これら首都圏地域、阪神圏地域のMSMを対象にHIV/AIDS対策に取り組むことは、わが国におけるAIDS発症者の減少およびHIV感染の拡大防止に寄与することとなる。

現在のHIV治療の進歩はめざましく、HIV感染者がAIDS発症前に、治療を開始することにより、ほぼAIDS発症を阻止することが可能である。しかし、国内の状況は、HIV診断時にAIDSを発症している患者の割合が約30%であり、治療が進歩している一方で、発見の遅れによるAIDS発症者の推移に改善傾向が認められない。

エイズ発症予防のための戦略研究の目的は、HIV新規感染者およびAIDS発症者を減少させることであり、その基本的シナリオは「HIV感染の早期発見と早期ケア/治療を促すこと」である。HIV感染の早期発見とケアが、新規感染者およびAIDS発症者の減少につながるのには、次の3つの理由による。①AIDS発症以前に感染が判明しHIV治療を適切に受けられることができれば、AIDS発症を予防できる可能性が高まる。②適切な治療の導入によって、血中ウイルス量が抑制され、セックスパートナーへの感染率を低下させることができる。③感染の事実を知る事によって、安全な性行動へ変化することが期待できる。つまり、より多くの感染に気づいていない人や、感染リスクを認知していながらも、HIV抗体検査を受けていない人が検査を受け、HIV陽性者が適切に早期治療を受けることは、AIDSの発症を予防し、HIV感染拡大の抑制につながる²。以上の理由により、HIV感染の早期発見を軸に、1) MSMのHIV抗体検査受検者を2倍に増加させること、2) HIV診断時におけるMSMのAIDS発症者数を25%減少させることを主要評価項目とした本戦略研究を計画立案し、有効性を検討する。

そこで本研究では、主要評価項目であるMSMのHIV抗体検査受検者の増加を達成するために、検査行動促進のための啓発資材の開発と普及、MSM向けHIV抗体検査体制の整備と拡大、検査不安者への相談体制の整備を介入として実施する(図1)。

図1 アウトカム達成に向けた介入の仮説



過去の研究より、自身の感染リスクが高いことを認識することや²、HIV 感染症や HIV 感染予防に関する情報への接触経験が、HIV 抗体検査の受検行動の促進因子になっていることが示されている。本戦略研究では、これらの促進因子を強化するとともに、過去の研究により有効性が実証されている各地域の特性に沿った当事者性の高い MSM に訴求性のある啓発資材を開発し、HIV 感染をより身近に感じさせ、自身の感染リスク認識を高める啓発普及戦略を実施し、受検行動の促進を目指す。

一方、現存の公的HIV抗体検査機関では、検査時間帯や曜日が限られ、受検希望者をこれ以上受け入れられない状況にある。啓発普及プログラムによって、HIV抗体検査を希望するものが、検査機関を訪れたとしても、検査を受けることが出来ない可能性がある。本研究の成果目標であるHIV抗体検査受検者を2倍にするという目標を達成するためには、その受け皿となるHIV抗体検査機関の整備と拡大が必須である。また、過去の研究より、検査の利便性が高いことは検査行動を促進する重要な因子であることが示されているが⁶⁻⁸、わが国のMSMを対象とした調査では、保健所が実施するHIV抗体検査についての利便性の評価は低く、「受検できる時間が限られている」ことを利便性が低い理由として挙げられている³。本研究では、保健所や公的検査機関、STDクリニックなどで利便性の高い、HIV抗体検査体制の整備と拡大を目指したプログラムを実施する。

また、啓発により感染リスクの認識が高まり、HIV抗体検査の必要性を意識させることができたとしても、HIV感染やHIV抗体検査への不安から、受検行動に至らない場合がある。この対策として、本研究では電話相談などの体制を整備し、これらの阻害因子を減少させ、受検行動を支援する。また、MSMへの偏見から不適切な対応を行っている検査・相談機関の存在も、MSMの受検行動の阻害因子となっており、相談体制の整備として、MSMのセクシュアリティに配慮した対応や相談を提供できる、医療保健スタッフのトレーニングや相談員の育成を行う。

第2の主要評価項目である HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数の減少の達成のためには、第一の評価項目である検査件数の増加に加え、検査により判明した HIV 陽性者が早期に受診を開始することが

必要である。しかし、検査を受けても、検査結果への不安から結果を受け取らない受検者や、陽性結果を受け取った受検者が治療等への不安から、医療機関に受診しない場合がある^{7,9}。そこで、本研究では MSM 向け相談体制の整備として、陽性判明者への受診行動を支援する取り組みも行う。

2. 目的

本研究では、首都圏および阪神圏に居住する MSM を対象に、HIV 抗体検査促進のための啓発普及、広報戦略、HIV 抗体検査体制の拡大、相談体制の整備を実施し、HIV 抗体検査件数の増加、AIDS 発症者の抑制効果を介入前後で評価検討する。

3. 成果目標

(1) MSM の HIV 抗体検査受検者を2倍に増加させる。

(2) HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数を25%減少させる。

4. 研究デザイン

HIV 抗体検査促進のための啓発資材・プログラムの開発と普及、HIV 抗体検査体制の整備と拡大、受検行動や受診行動を促進するための相談体制の整備を首都圏、阪神圏において実施し、各々の地域における HIV 抗体検査件数の動向とエイズ発症者数の抑制効果を介入前後で比較検討する。

HIV 感染者の約 8 割が集中する首都圏、阪神圏と同様の比較対照地域を設定する事は困難であり、また、インターネットやゲイネットワークを通じて介入対象外の地域へ容易に情報が拡散することが考えられるため、本研究では比較対照地域を選定しないが、最終的な評価の段階で都市部である福岡、名古屋のデータを参考値とすることを検討する。

MSM に対する啓発普及・広報戦略が検査件数の増加に影響を及ぼした程度については、保健所、公的 HIV 抗体検査機関、STD クリニック等の医療機関、検査イベント実施施設において、受検者に対し啓発普及プログラムの曝露状況を質問紙を用いて調査し、評価する。また、介入地域に居住する MSM 集団に対して母集団に近いデータを得ることが可能となるリスpondentドリブルサンプリング法¹⁰(以下 RDS 法)による横断調査を経年的に実施し、MSM 集団の啓発普及プログラムの認知率や生涯受検率および過去1年間の受検率の推移を評価し参考指標とする。

5. 対象地域と対象者

5.1 介入対象地域

首都圏および阪神圏を介入対象地域とする。首都圏とは、東京都、神奈川県、千葉県とし、阪神圏とは、大阪府、兵庫県、京都府を範囲とする。

本研究では、首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象としており、検査行動促進を目的とする啓発普及・広報戦略を、MSM が利用する商業施設が集積する大阪市内や、東京都内を中心に行う。大阪市内の施設には近郊の京都府、兵庫県に居住する MSM が、また 東京都の施設には、近郊の神奈川県、千葉県に居住する MSM が多く来訪しており、人的交流、情報交換が活発に行われている。したがって、大阪市内や東京都内で集中的に介入を行った場合でも、介入の効果は上記 6 都府県に居住する MSM に波及する可能性が高い。また HIV 抗体検査を受ける場所として大阪府、東京都以外の保健所等を選ぶものが多いことが想定できる。したがって、本研究においては上記 6 都府県を介入地域として設定する。

* 2009 年 4 月現在、埼玉県、奈良県への具体的な介入計画がなく、評価体制も整っていないことから、2 地域を介入対象地域から削除。(2009 年 4 月 30 日 倫理審査委員会提出)

5.2 対象者

対象者は介入対象地域に居住する MSM とする。

6. 介入方法

本研究の主要目標を達成するには、MSM に訴求性のある啓発プログラムを開発し、普及させることが必要であり、またその啓発の普及により生じる検査行動のニーズの増大に対応できる検査体制を整備していくことが必要である。とくに社会的偏見、差別を受ける可能性が高い MSM においては、セクシュアリティに配慮した検査、相談体制が整備されていることが検査行動の促進を進めるにあたり必須の条件となる。

従って、本研究では成果目標である MSM の HIV 抗体検査件数の倍加を達成するために 1) HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発普及、広報活動の展開、2) HIV 抗体検査体制の整備と拡大、3) 検査受検への不安軽減を図るための相談体制の整備を同時に推進することとする。また成果目標である MSM の AIDS 発症者数の減少を達成するためには、成果目標(1)の検査件数の増加に加え、陽性判明者が確実に早期に受診を開始できるための支援も必要となるため、MSM 向け相談体制の整備として、HIV 抗体検査で陽性が判明した受検者への受診支援も行う(図 2)。これらの複数レベルから構成される介入プログラムの構造を図 3 に示す。なお、これらの介入は首都圏、阪神圏別に取り組み、また、内容、実施地域について年次毎に段階的に拡大する。

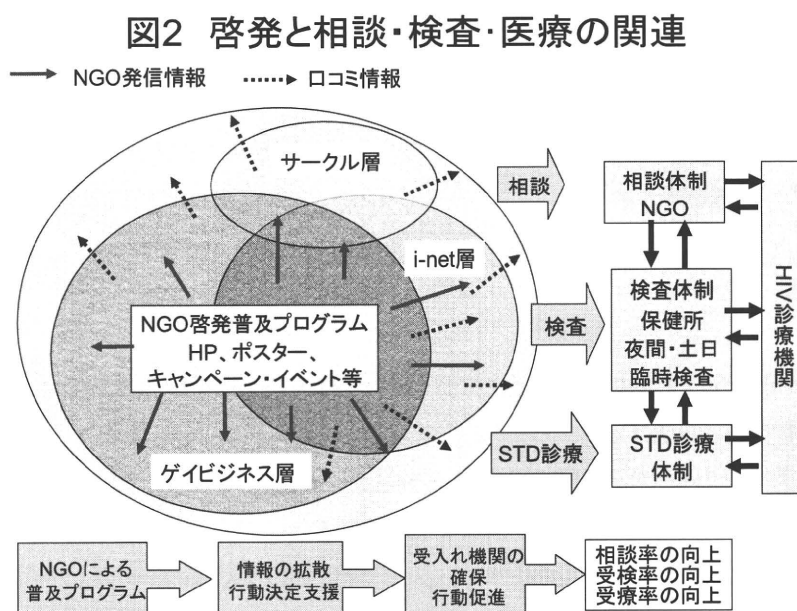
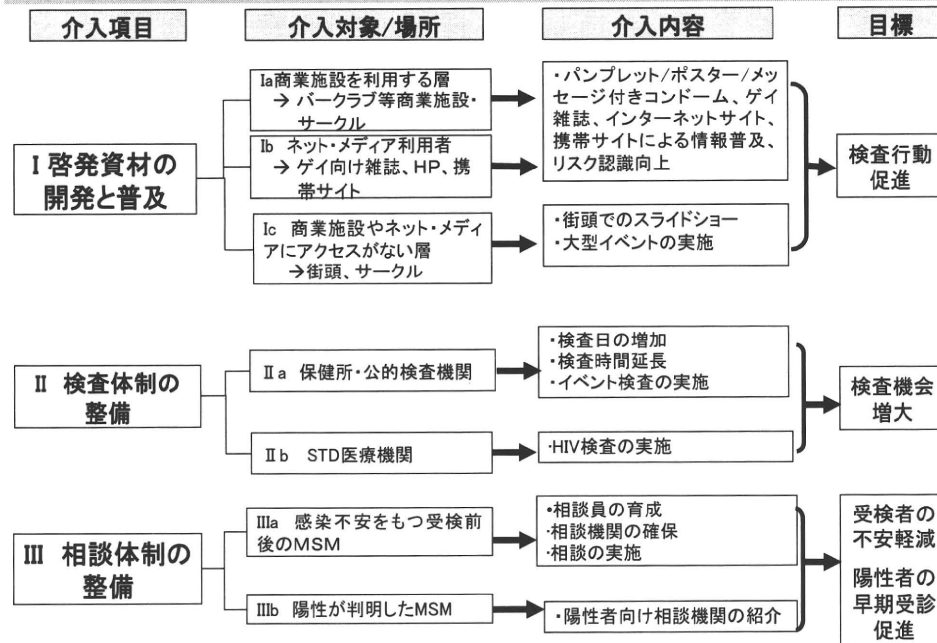


図3. 介入の構造



6.1 HIV 抗体検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及

NGO を中心とする啓発普及組織を構築し、MSM に訴求性のある啓発資材と普及手法を開発し、HIV 感染リスクの認識を高め、MSM 層における HIV 抗体検査受検行動の促進をはかる。HIV 抗体検査を受検する際に必要となる検査機関・相談機関の情報をゲイネットワークやゲイメディア、保健所、公的 HIV 抗体検査機関を通じて浸透、普及拡大を図り、検査受検の必要性を認識した MSM が確実に HIV 抗体検査を受検することができるように支援を行う。

(1) 啓発資材・プログラムの普及の対象

①商業施設を利用する MSM、②商業施設の利用は少ないがインターネットから主に情報入手を行う MSM、③商業施設やインターネットの利用が少ない MSM をターゲット層とし、各層別に有効に働きかける戦略をゲイ NGO と協働して展開する。また、ゲイ NGO、ゲイが多く所属するスポーツサークルや大学のゲイサークルとも協力関係を構築し商業施設の利用が少ない MSM 層にもアプローチをはかる(図 4 参照)。

(2) 啓発資材の普及場所

- MSM が利用する商業施設が集積する地域(首都圏—新宿・上野・浅草・新橋・渋谷・八王子・横浜等、阪神圏—北区堂山、ミナミ、新世界、京都、神戸等)でバーオーナーや、クラブ・イベントの主催者と協力関係を構築し、MSM に訴求性のある啓発資材の普及を図る。
- NGO による HIV 関連の啓発ホームページを整備し、インターネット上でのネット利用層を対象にした啓発を強化する。また、ゲイ・ネットサイトとの連携を構築しその利用層への情報暴露を促進する広告や広報を行う。

(3) 普及させるプログラム

既に過去の研究により有効性が立証されているプログラムを実施し、情報の普及を図る。また過去の介入実績が少ない中高年層や商業施設に立ち寄らない MSM 向けのプログラムに関しては、関係者からの聞き取りやフィールド調査を実施した上で新たな介入プログラムを考案する。

1) コミュニティ・ペーパーやゲイ向け雑誌、パンフレットを媒体とするプログラム

- MSM の間で、HIV 感染や HIV 抗体検査の話題を想起しやすくするためのコミュニティ・ペーパー(ゲイ関連の情報に HIV 抗体検査等の情報を掲載した情報資材)およびオリジナルコンドームキット、ポスター等の資材を配布する(首都圏、阪神圏)。
- HIV 感染者が身近にいること、自身にも関連した問題であることの認識を高める資材(Living Together)配布やプログラムを実施する(首都圏)。
- 検査、治療、相談、HIV 感染予防、セーファーセックス、STD 等に関する情報を掲載した資材を配布する(首都圏、阪神圏)。
- 本研究での協力検査機関の情報提供や、イベント検査実施に関する広報をおこなう(首都圏、阪神圏)。

2) クラブやイベント会場、路上や街角において実施するプログラム

- 50-100 人程度のクラブ・イベントにおいて、HIV 感染症をより身近に感じられることを目指すプログラム(陽性者の手記朗読など)を定期的実施する(首都圏、阪神圏)。
- 写真とテキスト、音楽で構成されるスライドショーの形式を使って、HIV/AIDS の現状と問題点を「目に見えるかたち」にし、ゲイタウンや繁華街のビルの壁面や公園など通りすがりの人々の目に付く場所で投影する(阪神圏)。

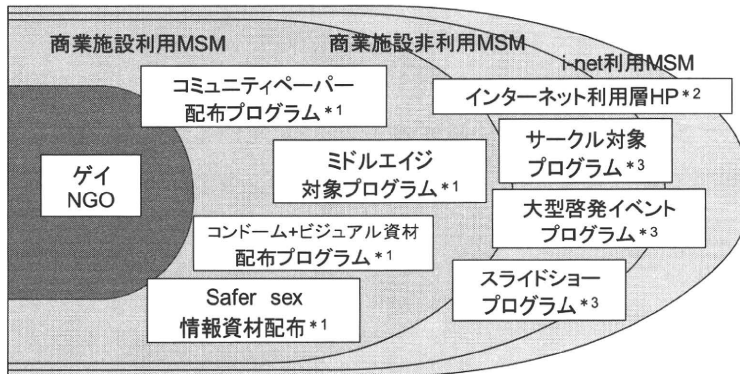
3) 大型エイズ啓発イベントの実施

- 年に 1-2 回、MSM が集まる大規模なエイズ啓発イベントを企画・実施する。また、ゲイ関連の大規模イベントの際にエイズ啓発キャンペーンを実施する。イベントやキャンペーンの開催情報は、NGO やゲイメディア、ホームページを通じて発信する。(首都圏、阪神圏)

4) インターネットを用いたプログラム

- パソコンや携帯電話を用いたインターネットを利用する MSM 層を対象に、ゲイ向けビジネスやメディアが展開するインターネットサイトとの連携を構築した上でコミュニティ・ペーパーやゲイ向け雑誌、パンフレットを媒体とするプログラムにおいて普及させる情報をインターネットサイト上でも公開し、インターネット利用層への情報の暴露を促進する。

図4 多様なMSM層への
ゲイNGOによる介入方法



- * 1 商業施設ベース:商業施設の集積地域でその利用者を主な対象に情報介入を行う
- * 2 i-netベース:HPによるネット利用層を対象にした情報介入
- * 3 地域イベントベース:スライドショー、大型啓発イベントなどサークルや街頭での広報

6.2 HIV 抗体検査体制の整備と拡大

(1)保健所・公的 HIV 抗体検査機関における検査体制の整備と拡大

1) 保健所・公的 HIV 抗体検査機関における検査時間の延長、検査日の拡大

- ・保健所・公的 HIV 抗体検査機関において、検査時間の延長、検査日の拡大を図る。具体的には、現行の開設時間に加え、平日夜間や土曜日、日曜日に受検できる体制の整備を働きかける。特に、ゲイバー等の商業施設集積地の近隣およびその沿線等の交通機関を勘案し、MSM にとって利便性の高い協力保健所および公的 HIV 抗体検査機関の整備、拡大を図る。首都圏では新宿区、渋谷区、中野区、八王子市、横浜市南区・西区・中区、神奈川県大和市・相模原市・厚木市を候補地域とする。検査体制を拡大する保健所・公的 HIV 抗体検査機関の選定は、ゲイ NGO の協力を得て行う。
- ・HIV 抗体検査体制拡大推進保健所の候補地は下記の通りである。
首都圏-横浜市南保健福祉センターなど(所管自治体と検討し決定する)
阪神圏-大阪市北保健センターなど(所管自治体と検討し決定する)
- ・平成 19 年度前半には MSM 対象の HIV 抗体検査を促進するための協力保健所、公的 HIV 抗体検査機関の候補施設との調整を進め、本戦略研究の定点保健所および公的 HIV 抗体検査機関のリストアップを行う。また下記の検査イベントの平成 20 年度試行に向けて調整を行う。
- ・協力が得られた保健所(以下、定点保健所)、公的 HIV 抗体検査機関についての広報は啓発を担当する NGO との共同でインターネットホームページ、コミュニティペーパー等でのアウトリーチ、ゲイメディアへの広告により行う。

2) 定点保健所・公的 HIV 抗体検査機関における検査イベントの実施

- ・短期間、特定の保健所において MSM 対象の臨時的検査イベントを実施する。その方法としては、6 月、12 月ごろに検査週間を設け、定点保健所における夜間検査もしくは土・日曜日の検査を特別に企画する。また、協力公的 HIV 抗体検査機関での検査時間帯を延長する。
- ・検査イベントの実施方法のうち、検査時の受検者へのオリエンテーション、インフォームドコンセン

トおよび告知とカウンセリングの方法については講習会等で研修し、クライアントへの検査広報、電話相談等のリソースの紹介については、ゲイ NGO の協力を得て必要な情報を掲載した資料を配布する。

・検査実施の広報は、啓発を担当する NGO と協働でインターネットホームページ、コミュニティペーパー等でのアウトリーチ、ゲイメディアへの広告により行う。

3) 保健所の検査スタッフに対しての MSM への相談・対応に関するスキルアップ講習会の実施

・ゲイ NGO や保健所で MSM 対応の HIV 抗体検査に熟知している専門家(大阪市土曜常設検査、南新宿検査・相談室、新宿区保健所の HIV 抗体検査担当者を予定)による MSM への相談・対応に関する講習会を実施する。

(2) STD クリニックにおける HIV 抗体検査体制の整備

1) 利便性が高く、セクシュアリティに配慮した診療を行える協力 STD クリニックの確保

保健所や公的 HIV 抗体検査機関以外に HIV 抗体検査を受検できる場所として STD クリニックでの検査体制を整備する。首都圏、阪神圏共に 3-5 箇所の STD クリニックを確保して HIV と他の STD 検査を実施する。協力が得られたこれら医療機関(以下、定点 STD クリニック)に関する情報(場所、開院時間帯等)を整理し、MSM 対象の広報資料に掲載する。

2) STD クリニックにおける検査イベントの実施

6 月、12 月を中心に検査普及期間を設け、HIV や他の STD 検査の実施を図る。

3) STD クリニックの検査スタッフに対する MSM への相談・対応に関する講習会の実施

ゲイ NGO や保健所で MSM 対応の HIV 抗体検査に熟知している専門家(大阪市土曜常設検査、南新宿検査・相談室、新宿区保健所の HIV 抗体検査担当者を予定)による MSM への相談・対応に関する講習会を実施する。

(3) 検査機会拡大への協力に対する措置

1) 定点保健所、公的 HIV 抗体検査機関および定点 STD クリニック等においては HIV や他の STD 検査の実施や、検査にかかわるスタッフへの負担、および検査資料の負担増大が考えられ、検査機会拡大への協力の一環として、当該機関と相談し、当研究費により費用面を負担して対応する。

6.3 相談体制の整備

(1) 相談員の育成

MSM の HIV 感染リスク、感染不安、受検前後の不安等に対し、適切に対応できる電話相談員、対面相談員を育成する。

・電話相談員の養成や研修会の実施は、既に実績をもつ NPO 法人ふれいす東京に委託する。首都圏については、東京都、区保健所、首都圏の保健所の電話相談、エイズ予防財団の電話相談等の担当者を対象者とした講習会を企画・実施する。

・相談体制が十分に整備されていない阪神圏においては、人材の募集や電話相談員の養成、研修会実施における企画調整は、NPO 法人ふれいす東京、NPO 法人 CHARM、国立大阪医療センター、MASH 大阪が協同して行う。

・大阪をはじめとする阪神圏の保健所、NGO の電話相談担当者を対象とした講習会を実施する。